

公明党議員団視察報告書

1 視察先・目的

- ・ 埼玉県新座市

建築物の耐震化に関する取組について

- ・ 新潟県新発田市

食の循環によるまちづくりについて

- ・ 長野県上高井郡小布施町

まちじゅう図書館事業について

2 期間

平成28年11月16日～18日

視察報告書

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成28年11月16日（水）午後1時15分から午後3時まで |
| 視 察 先 | 埼玉県新座市 |
| 視 察 項 目 | 建築物の耐震化に関する取組について |
| 視 察 者 | 公明党議員団（大村 聡、泉 清秀） |
| 視 察 内 容 | <p>新座市では、平成21年5月から耐震助成制度を開始し、広報やホームページのほかリーフレットの全戸配布、市民対象の耐震化講座等を行ったが、21年度の耐震助成件数はゼロ件、22年度は耐震診断が5件、耐震改修が5件という結果となったが、23年4月から助成額を引き上げ、耐震診断は26件、耐震改修は18件と増加した。さらに、25年4月からは助成額の引き上げとリフォーム等補助併用制度を開始するとともに、市内の旧耐震建築物の把握に努め、助成対象の可能性のある建築物の所有者にダイレクトメールを送付、その所有者向けに住宅耐震化説明会を開催することにより、26年度の耐震診断件数は110件、耐震改修件数は47件と大幅に増加した。</p> <p>住宅及び多数の者が利用する建築物の耐震化を促進するためには、その所有者等が震災対策を自らの問題として認識し、自らの責任において取り組むことが不可欠である。このことから、耐震化に対する意識啓発や耐震化を実施する際に要する費用などの負担軽減は大変重要となる。</p> <p>今後は、住宅の耐震化に関する相談窓口を設け、情報提供による意識の啓発や、市民のニーズを把握し、各取組に反映させるなど耐震化の推進を図る。</p> |
| 所 感 | <p>改定新座市建築物耐震改修促進計画による平成32年度の耐震化率の目標値は、住宅が95パーセント、大規模民間建築物が95パーセント、市有建築物が100パーセントとなっており、耐震登録サポーター制度、耐震化相談窓口、耐震マーク表示制度の推進など様々な取組があった。また、耐震助成件数の実績の推移を見ると、23年度と26年度が大きく跳ね上がっている。23年は東日本大震災の年、26年度は前年の25年度から助成額の増額及び耐震改修とリフォーム工事の併用、耐震改修とバリアフリー工事併用への補助が開始され、対象者にダイレクトメールを送付し住宅耐震化説明会を開催、制度周知に努めたことによるものではないかと思われる。</p> <p>大地震が発生した場合、自らの生命・財産を守るためには、住宅の耐震化を推進することが重要である。市民が災害時に過酷な避難生活を回避することができ、自宅で一定の生活が可能であれば、避難施設の維持管理が軽減され、市民と行政双方に有益であり、積極的に促進することが必要である。新座市では、助成対象者となる可能性のある所有者にダイレクトメールを送付、その対象者向けに住宅耐震化説明会を開催し、28年度は314名が参加、10月末現在耐震診断件数は107件、耐震改修件数は54件と増加した。</p> <p>本市においても重点的に耐震化を促進する地区に個別訪問をするなど取り組んでいるが、民間住宅の耐震を促すさらなる取組を提言していきたい。</p> |

視察報告書

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成28年11月17日（木）午前9時30分から正午まで |
| 視 察 先 | 新潟県新発田市 |
| 視 察 項 目 | 食の循環によるまちづくりについて |
| 視 察 者 | 公明党議員団（大村 聡、泉 清秀） |
| 視 察 内 容 | <p>「食」を取り巻く様々な問題の背景には、「食（消費者）」と「農（生産者）」の距離が拡大したこと、つまり「食の循環」の各段階のつながりが希薄になったことが一つの要因であるとして、新発田市では、「食の循環」の一連の流れをつくり、活用することをベースとした具体的な取組を提言し、「食」と「農」を重視したまちづくりを進めるため、平成20年12月に「新発田市食の循環によるまちづくり条例」を制定した。</p> <p>現在の課題としては、食の安全性に対する消費者ニーズが高まっていることから、安全で安心できる農産物の生産拡大、稲作とあわせた野菜等園芸作物の生産拡大による複合経営と新発田ならではのブランド農産物の確立が必要であるとのことであった。また、農業の担い手不足で平成22年の農業就業人口は、過去10年間で約3割減少している。農業就業人口の内訳は65歳以上の農業者が6割と高齢化が進んでおり、新規就農者の確保に加えて、経営力を備えた農業者、農業生産法人、集落営農組織のさらなる育成が課題である。</p> |
| 所 感 | <p>食の循環によるまちづくり推進の取り組みは、多くの自治体が課題としている食育、農業、産業、環境保全、観光などを分野横断的に取り組む重点課題として、プロジェクトチームを設置し取り組んでいる。平成22年9月からモットイナイ運動が始まり、食の循環とモットイナイ運動の連動が功を奏し、市内の飲食店、宿泊施設などで創意工夫をする店舗がふえ、市民にモットイナイ精神が浸透しつつあり効果を上げている。</p> <p>生ごみの分別意識を高め、収集した生ごみは堆肥原料として市の有機資源センターへ運び、堆肥として農地等に還元され、農薬や化学肥料に過度に頼らない安全・安心な農産物を栽培する。そして、収穫した農産物を直接又は加工して価値を高め、市内外に向けて販路を拡大している。一方、地産地消の考え方により調理に地場産農産物を使うことを心がけ、家族と一緒に楽しく食卓を囲み、なるべく残さず食べる。また、調理時に排出した調理くずや食べ残した残^き渣は堆肥として再利用し、土に還すことで新たな食物の生産へとつなげている。こうした食の循環が産業の発展、健康増進、教育と伝承、環境保全、観光と交流の施策を結びつけている。</p> <p>本市においても、市民、事業者、行政が一体となって食の循環に取り組むことにより、健康で心豊かな人材の育成、産業の発展、環境との調和、まちのにぎわい等の地域活性化と市民生活の向上を目指すことが必要であると感じた。</p> |

視察報告書

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成28年11月18日（金） 午前9時30分～11時30分 |
| 視 察 先 | 長野県上高井郡小布施町 |
| 視 察 項 目 | まちじゅう図書館事業について |
| 視 察 者 | 公明党議員団（大村 聡、泉 清秀） |
| 視 察 内 容 | <p>小布施町では、参加する商店や個人宅を全て図書館として考え、その主は全て館長とする「まちじゅう図書館」を平成24年10月にスタートさせた。商品展示棚等の一角や個人の住宅の玄関先の棚等に、商品に関係する本や館長こだわりの蔵書を展示する。休館日や開館時間は館長の自由設定、貸し出しも館長との交渉次第で決定することができる。開館していることを示す「オブセドリ・フラッグ」を作成し、各館に配付し、来館者は、このフラッグで開館しているか否かを判断することができる。街角に「本がある」場を通じて、人と人がつながっていくことを願い、いつもワクワクする情報があるという活動をみなさんと一緒に楽しむ。それが「まちじゅう図書館」である。「小布施町立図書館まちとしょテラソ」が中心となり、10館からスタートし、現在は15館で展開中である。</p> |
| 所 感 | <p>小布施町まちじゅう図書館の最大の特徴は、町民との協働の図書館である。中心となるまちとしょテラソは、「学びの場」、「子育ての場」、「交流の場」、「情報発信の場」という4つの柱による交流と創造を楽しむ文化の拠点という理念のもと図書館のあり方検討会からの報告書を尊重し、住民懇談会や意見交換会などの意見を踏まえ建設へ向けて動き出している。また、設計者や館長も全国公募で決め、さらに、設計案を町民約100人で組織する建設運営委員会で、様々な角度からの意見交換を行い、修正を施し開館に至っている。</p> <p>図書館名も、町民に親しまれる集いの場になるように、これまで親しまれた町の図書館であることと待ち合わせの場という意味を込めた「まちとしょ」。さらに、「世の中を照らしだす場」、「小布施から世界を照らそう」などの考えを加えて「まちとしょテラソ」という愛称となった。まちとしょテラソは、夜間には、あんどんのように暖かく周囲を照らす。この場で未来を担う子どもたちが世界を感じ、飛び立っていく支援や何かをつくり出す人の支援、ここへ来ると何か新しいものを学べるといった生涯学習の拠点となることを目指している。</p> <p>今月のテラソ百選、特集コーナー、四季テラソ、企画コーナーなど多彩な取組をしており、まさに、本を介して人と人をつなぐ場にと館長も力説していた。そんな理念の中からまちじゅう図書館構想がスタートしており、まちじゅう図書館随一の蔵書量の「かねいちくつろぎサロン」の現地を視察し、理念が浸透していることを感じた。</p> <p>コンパクトにまとまった町の利点、有効性、ポテンシャルを最大限に活かそうとする取組は、図書館事業に限らず大変参考になった。また、公立図書館のあり方についても大いに考えさせられる視察となった。</p> |